

新聞を読んで考えよう

－開倫塾の取り組み－

開倫塾

塾長 林 明夫

<http://www/kairin.co.jp>

1. はじめに

(1) 開倫塾の基本スタンス

- (ア) 学習塾は学校教育の補完的機能を果たすべき。学校教育で不足することを補うのが学習塾。
- (イ) NIE についてもすべての学校で展開されているわけではない。日本国中すべての学校で NIE が展開されるまで、その不足分を少しでも補いたい。

(2) 開倫塾の教育内容

- (ア) 学校成績の向上のための教育
- (イ) 希望校への合格のための教育
- (ウ) この中で NIE をとらえたい。

(3) ただし、開倫塾には次の 4 つの教育目標がある。

- ㊦ 高い倫理
- ㊦ 高い学力
- ㊦ 高い国際理解
- ㊦ 自己学習能力の育成

この 4 つの教育目標の達成のためにも NIE は有用であると考えている。

- (ア) 開倫塾では「教育ある人間」(Educated Person)を目指すことを、全塾生のみならずすべての保護者、地域社会の人々、ビジネスパートナー、更には私を含めた全職員に奨励している。
- (イ) 「教育ある人」とはピーター・ドラッカー博士の言う「勉強し続ける人」のことである。私は、ドラッカー博士の定義に加えて、「自分の夢や目標を実現したり自分のよさや価値観を更によくし深めるために、死の直前まで自分自身のやり方で勉強し続ける人」をもって「教育ある人」と考える。
- (ウ) 「一生勉強、一生青春」(足利出身の相田みつを先生の言葉)の生活を送るきっかけをつくるためにも、NIE は欠くことができないと考える。

(4) 以上のような基本スタンスのもとに、開倫塾では、肩ひじを張らない・無理のない範囲で、NIE 活動を少しずつであるが創業以来展開してきた。3 年前よりスタッフも少しずつ揃い、塾生も 5000 名を越えて地域を代表する学習塾としての体裁が整いつつあることに加え、日本経営品質賞の地方

版である栃木県経営品質賞知事賞の受賞(全国の教育機関では初めての受賞)をきっかけに、NIE 取り組みのための仕組みづくりをスタートし今日に到っている。

2. 開倫塾における NIE 活動の展開

(1)開倫塾 15 の躰(しつけ)プログラムの中に「新聞を読んで考えよう」を入れ、全校舎で新聞を読んで考えることを塾生に奨励。

(ア)小学生は 20 分以上、中学生は 40 分以上、高校生は 1 時間以上が、1 日に新聞を読む時間の目安。

(イ)年度の初めにも奨励するが、自由時間の取れる夏休みをきっかけに新聞を読むことを奨励し、新聞週間のある 10 月を「新聞を読んで考えよう」のキャンペーン月間とする。

(ウ)NIE の展開方法は、各校舎(40 校舎)の自主的な判断に委ねる。

(a)スクラップの方法の指導

(b)先生が、塾生に読んで考えてもらいたい記事をコピーして授業中に手渡し、解説したり廊下等に掲示したりしていることが多い。

(2)各新聞社・通信社で実際に記事を書くことを職業にしていらっしゃる記者を各校舎にお招きして、「新聞ができるまで」をテーマに塾生にお話をして頂くことにより、新聞を読む動機づけ(インセンティブ)を塾生に行っている。

(ア)(i)2003 年度…… 10 校舎

(ii)2004 年度…… 7 校舎

(iii)2005 年度……交渉中

(イ)記者との質疑応答を含む特別授業後、塾生は感想や考えたことを文章にまとめる。講師である記者の方にも授業の感想を文章にまとめて頂き、記者と参加者及び全教職員にフィードバックする。

(3)教職員の NIE への取り組みを促進するために、国語科に依頼し、読売新聞印刷所の見学と支局長による先生のための「新聞ができるまで」の講義を実施した。

(4)今後(2005 年度以降)の開倫塾における NIE 活動の課題

(ア)開倫塾の教育課程の中に NIE の促進をどう位置づけるかを明確に決めること。

(イ)カリキュラム、教材、教え方(教授法)の開発と展開のスケジュール化。

(ウ)とりわけ、開倫塾の先生の動機づけと研修システムの中に NIE をどう組み入れるかが最大の課題となる。

(エ)新聞を毎日丹念に読み自らの力で深く考える習慣のついている塾生ほど、すべての教科の学力が高く学校成績の向上にもつながり、同時に受験勉強においても進学の動機づけが明確にできている場合が多く入試にも積極的に取り組むため、「新聞を読んで考えよう」という開倫塾の NIE への取り組みに賛同してくれる先生が多い。ただし、日常の学習指導時間の中にどう効果的に NIE を取り入れるかの具体的な手法については、強い意思を持ち開倫塾をあげて開発する必要がある。

3. おわりにー私自身のNIE促進への取り組みー

- (1) 開倫塾の経営責任者として、塾生・保護者・地域社会・ビジネスパートナー・教職員の皆様に対して「新聞を読んで考える」ことの大切さを訴える。
 - (i) 毎月1回 6500部発行の「開倫塾ニュース」の中で、年に1回は訴える。
 - (ii) 毎週1回土曜日の9時15分から10分間放送中のラジオ番組、CRT 栃木放送「開倫塾の時間」の中で年に3回～4回「新聞を読んで考える」ことを訴える。(聴取者は約10万名)
- (2) 月に1～2度依頼されて行っている中学校や高校や大学での生徒や学生向けの授業、各地の教育委員会からの依頼で行っている公立学校教員への学校経営品質向上についての講演会、ビジネスマン向けの経営者としての勉強方法に関する講演会などで、「新聞を読んで考えること」の大切さを訴えている。
- (3) 栃木県社会教育委員として、栃木県の学校教育や社会教育の中でNIEを促進するよう訴えている。
- (4) 開倫塾の職員採用試験の最後に行われる塾長面接において、当日の英字新聞の一面の記事を5～10分間音読させている。

* 開倫塾への就職希望者に対する会社説明会において、開倫塾ではNIE活動促進のために「新聞を読んで考える」ことのできる塾生の育成に取り組んでいるため、就職を希望する人は毎日1時間日本語で書かれた新聞を熟読後、英字新聞を1時間読んでから採用試験に臨むように要請。また、塾長面接では必ず、英字新聞音読が課せられることを明示している。
- (5) 社団法人経済同友会の「マスコミとジャーナリズムのあり方を考える会」のメンバーとして、新聞のあり方についての研究を深めている。

以上
マニー・ハノイ株式会社(ベトナム)にて記す